



## － 定番のゲームをマスターする② (新しい語彙に慣れ親しむ活動の充実) －

「定番のゲームをマスターする」と題した2回目、今回は、キー・ワード・ゲームです。

前回同様「紙上の再現」ですので、どこまでできるかわかりませんが、できるだけ細かいニュアンス・感覚を伝えられるように努力してみます。

### The Key Word Game (キー・ワード・ゲーム)

定番中の定番と言ってよいでしょう。キー・ワード・ゲームです。基本の確認です。

(1) ねらい・効果…特に、新しい単語が出てきたときに、くり返し聞いて発音するのに効果的なゲームです。指導者が発音した単語を全体で一斉にくり返します。もしALTがいれば、その発音を聞いてすぐくり返すことになるので、良質な英語のインプット・アウトプットの練習が期待できます。

(2) 準備するもの…やり方によっては、特に教材が必要ありません。手軽にできるのは魅力的です。練習したい単語を黒板やホワイトボードに提示したいときは、A4サイズ程度のフラッシュカードがあればよいでしょう。

(3) 進め方 ・ まずは、新出単語を一通り確認します。フラッシュカードがあれば準備します。

① Let's play the Key Word Game. 「キー・ワード・ゲームをしましょう。」

② Make a pair, put your/one eraser on your desk.

「ペアを作って、消しゴムを置いてください。」

(活動の慣れ具合や実態に応じて、take out your eraser「消しゴムを出して」、face to face「向かい合って」などのフレーズを、ジェスチャーといっしょに付け

加えてあげましょう。また、「ペアで二人とも消しゴムを出す(両方勝ちちゃうでしょ!)」という微笑ましいことも…。そんなときは、まず one pair「一つのペア」と言いながら、目の前の二人を囲むように「まる」を手で描きペアを示します。それから、消しゴムを一つだけ手にして、one eraserのoneを強調しながら、ゆっくり二人の間に置いてあげましょう。)

③ The Key Word is "apples". 「キー・ワードは apples です。」

④ Repeat after me. 「くり返してください。」(後について言うようにジェスチャーで促す。)

⑤ But, the Key Word, don't say/don't repeat. 「でも、キーワード(の時)は言いません!くり返しません!」(don't say/don't repeatに合わせて、口の前で“バツ(X)”のジェスチャーをします。)

⑥ Take/Grab your eraser. 「消しゴムを取ります。」(「ひつつかむ」ようなジェスチャーを付ければこちら大丈夫でしょう。)

⑦ Hands on your head. 「手を頭にのせて!」Ok, let's start! 「いいですか!始めるよ!」

・ 基本形は以上です。最初は、聞き分けやすい単語をキー・ワードにして、聞き分けにくい・出だしが同じ音で間違えやすい単語(peaches と pineapples のような)をくり返し発音して練習すると効果的です。「キー・ワード以外の単語がくり返される」ということを忘れずに。

(4) アレンジ ① Hi, friends! L3では、Let's play the Key Number Game. 「キー・ナンバー・ゲームをしましょう。」L6では、Let's play the Key Alphabet Game. 「キー・アルファベット・ゲームをしましょう。」とできます。

② 基本のキー・ワード・ゲームのルールに慣れてきたら、センテンス(文)でもできます。Hi, friends! L4では、「I like apples. なら消しゴムを取るけど、I don't like apples. は取らない」などできます。

(5) 気を付けたいこと ① 言葉をくり返さずに、取ることだけに気を使ったり、毎回消しゴムを取ろうとしたり、単なる「ゲーム」になってしまうことは気をつけましょう。「言葉の練習である」ことを忘れずに上手に進めたいものです。

② 実態によっては、ペアの作り方一つにも配慮が必要かもしれません。「いつも同じペアで、いつも同じ子が勝つ、いつも自分が負ける」状態が続くと、さすがにどうでしょう。一工夫ほしいところです。

③ 机を向かい合わせたときに、段差ができることがあります。消しゴムの置き場所によっては、突き指や爪をけがしたりする心配も…。些細なことですが、一言足して始めれば防げることです。こういうことは、「日本語」でいいですよ!「何から何まで英語で」ということではありません。

今回は、キー・ワード・ゲームを取り上げました。基本形は同じでも、さまざまなやり方ができるゲームです。得意な先生方も多いでしょう。教室英語を使いながら楽しく進めたい活動です。また、ALTがいる場合の進め方のポイントは、Compass No7をご覧ください。

